

キャンパス通信 ippeki



- 01 学長挨拶／
キャンパスに鼓動を!
- 02 特集／
新型コロナウイルス感染症に対する
本学の取り組み
- 03 1年生・2年生
- 04 コロナ禍でオンラインを活用したキャリア支援を
行っています
- 05 看護師国家試験に向けて頑張りました!
- 06 国際看護実践研究センターだより
- 07 大学院
- 08 教員紹介
- 09 NEWS

第22号
2021.10▶2022.3

令和3年度卒業式 3月14日(月)



※新型コロナウイルス感染症の影響により、式典は規模縮小・時間を短縮して執り行い、式典中はマスク着用するなどの対策を講じております。

ひとりを看る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

キャンパスに鼓動を!

Withコロナの生活が2年余り続き、その影響は私たちの生活全般に広がっています。

我々の学び舎では、学生、教職員の協力のもと、学修機会の確保と、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策の徹底の両立に取り組んできました。私は、大学キャンパスの内外を歩き、キャンパスの息遣いを肌で感じることを日課としています。COVID-19が猛威を奮っているときは、学生の皆さんの姿が消え、キャンパスは静まりかえります。このような時、とても寂しい思いになりましたが、皆さんがそれぞれの場所で、看護に対する学びをすすめていることを思い、その息遣いを感じていました。

新入生を迎え、新たな年度を迎えます。Withコロナの生活はしばらく続きますが、豊かな実りある大学生活となるよう、感染対策を徹底し、できるだけ、「ライブ」の授業や実習が可能になるよう全学をあげて取り組んでいきたいと思います。大学は、多様な個性をもつ学生、教員・職員が日々顔をあわせて、勉学や課外活動、社会連携等を含むキャンパスライフを通じて、知識のみならず人と人との関り方を身に付けていく場です。それが大学で学ぶことの醍醐味であり、その中で生涯の友や師を得ることができるのだと思います。

ことに、看護・保健・医療を学ぶ私たちは、看護学というプロフェッショナルという立場から、病や痛み、苦悩を抱えている人々にかかわり、そのかかわりを通して自身も成長できるという学修の機会を得ることができます。人と人がかかわることでのちを守り、癒しがもたらされるという学びを通して、みなさんの世界がより拓かれることを期待しています。

Withコロナの生活ではありますが、アスティ1丁目1番地の大学キャンパスでは、学生、教職員、地域の皆様とのあたたかなかかわりが広がり、それぞれの人々の鼓動が伝わりあえる学び舎にしましょう!

学長 小松 浩子



教員紹介

	教授	准教授	講師・助教・専任教員	助手
リベラルアーツ・専門基礎	柳井 圭子 高瀬 文広 中山 晃志		木村 涼平	
看護の基盤	本田 多美枝 倉岡 有美子	阿部 オリエ	小手川 良江 鬼丸 美紀 隈井 寛子 高堂 香菜子 添田 梨香	福本 優子
成育看護	永松 美雪	川崎 幹子 石山 さゆり	松中 枝理子 太田 純代 福田 陽子 菊池 さよ	
老年・慢性看護	姫野 稔子 中村 光江	原田 紀美枝 梶原 弘平	西山 陽子 千原 明美 山本 孝治 鈴鹿 綾子 山内 多恵	
ヘルスプロモーション・在宅看護	小野 ミツ	西村 和美 緒方 文子	宮川 淳子 鎌田 ゆき	
メンタルヘルス	高橋 清美	石飛 マリコ	高瀬 理恵子	
クリティカルケア・災害看護	櫻本 秀明		福島 綾子 鴨川 めぐみ 吉原 駿	
国際看護	小川 里美		宇都宮 真由子	
地域連携・教育センター 国際看護実践研究センター	伊藤 明子			

(2022年4月1日現在)

特集



新型コロナウイルス感染症に対する 本学の取り組み

福岡県内の感染者数の減少に伴い、後期の授業は感染対策を徹底し対面で実施することになりました。講義科目については1学年を2グループに分け、2教室をzoomでつなぎ授業を行いました。また、看護技術系科目は、学生も教員も細心の注意を払いながら実習室での実技演習に取り組みました。実習科目については、施設のご理解とご協力の下、可能な限り臨地で実習することができました。



12月末より県内でもオミクロン株の流行の兆しを受け、1月からは演習科目のみ登校とし、それ以外はオンライン授業へ変更しました。

1月下旬からは後期試験が開始となり、試験は対面で実施できるよう1日1学年の登校とし、学年毎に試験日程を調整しました。試験前に学生は健康状態を大学に報告するとともに、試験当日も体温をはじめ健康状態を教員が確認し試験を実施しました。学生、教職員の理解と協力により、学内での感染を発生させることなく、すべての試験を終えることができました。

キャンパスに戻ってきた学生活動

文化・表現系

- ▶ 吹奏楽部 (吹奏楽)
- ▶ ゆいまーのわ (エイサー)
- ▶ CIRCLE OF PEER (健康教育・地域ボランティア)
- ▶ English Speaking Society (英語)
- ▶ KDNS (防災活動・復興支援)
- ▶ Sing (音楽活動)・写真サークル (写真)
- ▶ 新秩序~ニューオーダー~ (ディスカッション)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、課外活動の制限が長引く中、サークル活動や自治会活動が希薄となり、全サークルが存続の危機にさらされました。そこで、2年生を中心に自治会執行部が立ち上がり、先輩や教員の助言を受けながら運営について見直し、サークルメンバーの募集を行いました。その結果、14のサークルにメンバーが集まり、11月には実際にバレーボールやバドミントンなど活動できるようになりました。

スポーツ系

- ▶ 牛蛙の会 (バレーボール)
- ▶ 弓道部 (弓道)
- ▶ バドミントンサークル (バドミントン)
- ▶ Red cross (バスケットボール)
- ▶ DnD (Dance Nurse Dance) (ダンス)
- ▶ テニスサークル (テニス)

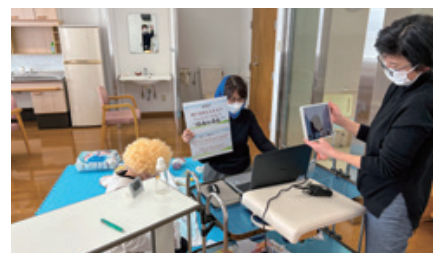
上位3チームには、学長室で表彰式を行いました！
その他、企画賞・演技賞・協力賞
技術賞・ベストパフォーマンス賞
ベストサポート賞が
小松学長より贈られました！

第一回学長杯を開催しました

学生間だけでなく教職員との交流が薄くなっているいまだからこそ、チームで協力しながら「楽しく学ぶ」をコンセプトとしたイベントをオンラインで開催しました。

今回は1チーム3~5名で構成された全8チームが、7つの課題にチャレンジしました。オンラインのため画面越しではありましたが、4年生のボランティアと教職員がさまざまな工夫をこらし、その場にいるかのような臨場感のある中で課題に取り組みました。困っている新人看護師に的確な指示を出したり、認知症のある高齢者とその家族への対応をしたりするなど、参加者はこれまで習った知識をフル活用して課題に取り組みました。学年によってはまだ未学習の課題もありましたが、事前に出されたヒントをもとに事前準備をして課題に取り組みました。

参加者からは「楽しかった」「面白かった」という声とともに、「自分が知っていることでも、活用できなければ知識とは言えない」「みんなで看護について考え、話し合うことができて、学習のモチベーションが上がった」「まだ習っていないことをたくさん経験して、今後が楽しみになった」という意見が聞かれました。参加者側も、企画・運営に関わった教職員も、みんなで楽しく学ぶことができました！



1年生

1年生がフィジカルアセスメントに取り組みました

1年生が後期の必修科目であるフィジカルアセスメントに取り組みました。この科目は、身体の情報収集する方法を学び、看護ケアについて考えるということを目指しています。1年生のみなさんは、前期に学んだ人体の知識や後期に学ぶ疾病の知識を活用しながら、一生懸命に取り組んでいました。COVID-19の影響もありましたが、感染対策をしながら学生同士で演習を行い、様々な知識と技術を習得したと思います。フィジカルアセスメントでは、事前学習や演習での実施、演習後の復習など、多くの課題に取り組みながらの学びが求められましたが、1年生のみなさんは1つ1つ丁寧に取り組んでいました。また、教員が模擬患者となって実施した総合演習では、緊張しすぎて学生のみなさんの笑顔もひきつっていましたが、今まで学んだことの一連を実施することにより、自分たちの課題も明確になったようでした。フィジカルアセスメントでは、臨地実習や看護師になってからも求められる力の基礎を養ったと思います。2年生に向けての準備もできたと思います。この学びを発揮できるように、私たち教員も支援していきます。一緒に頑張りましょう。

フィジカルアセスメント担当 小手川 良江

<1年生 小川舞桜さんの感想>

「フィジカルアセスメント」と聞いて、難しそう…と後期に入った頃は緊張していましたが、一つ一つ解説して下さり、友達と教え合いながらすることができたので、とても楽しかったです。また、分野によって担当する先生が違ったのも、私としては面白かったです。先生方によってアプローチする方法や課題のスタイルも異なっていたので、今後実習でのレポート提出の際に役立つのではないかと思います。個人的に、実技が苦手な…どちらかというとカリカリ勉強している方が合っているのかな、と思うことが多いです。フィジカルアセスメントや看護技術をしている際に、どんくさ!と心の中で自分に突っ込むことが多々ありました。ですが、看護師には技術も大事!先生や友達が実践しているのを見ながら、効率よくテキパキ!を心掛けて2年生では挑みたいです。そのためには、事前学習は欠かせないですし、人体や病態、疾病で得た知識も必須です。どの科目も手を抜かず、ステップアップしていきたいです。

2年生

2年生がレベルⅢ慢性看護実習に取り組みました

2年生は1月中旬から3週間にわたり、レベルⅢ慢性看護実習に臨みました。オミクロン株の感染拡大に伴い、残念ながら臨地での実習ができず、オンラインと一部学内演習を組み合わせた実習になりました。本学では、今年度より教育用webカルテを導入しており、学生は医療施設の電子カルテに近い情報(診療録や検査データなど)から、日々変化する事例患者の情報収集を行い、アセスメント、看護計画の立案をしました。また、学生が臨床の雰囲気を感じることができるよう、専門看護師や他職種による臨床講義を実施し、患者さんとの関係性を構築することの重要性や個性について学びを深めました。最終カンファレンスでは、実習病院の看護師長さんに遠隔で参加頂き、学生2名が司会を務め積極的な意見交換をし、学びを共有しました。

今回の貴重な学びを3年生のレベルⅣ実習に活かしてほしいと思います。

レベルⅢ慢性看護実習担当 山本 孝治



<2年生の感想>

- 今回はオンライン実習だったため、特に、カルテや動画から患者さんについての情報を取る力が身につきました。アセスメント力が上がった自覚があり、とても嬉しくて楽しかったです。
 - 今回の慢性看護実習を通して、アセスメントの際、疾患として捉えるのではなく、患者さんの背景を捉え、患者さん自身を見つめることの大切さを学ぶことができました。また、臨床講義を通して多職種連携を取るためには看護師が患者さんのニーズを把握し、どの職種に協力を呼びかけるべきかを調整する役割を持つことを理解できました。実際の患者さんとコミュニケーションをはかれませんでした。演習で患者さん役の先生に対しセルフケア能力を高める指導を行ったり、テーマを決めグループディスカッションを毎日行うことで、有意義な実習となりました。
- この実習を通し、コミュニケーションをとる重要性や具体的な方法を学ぶことができ、これは今回の実習において私自身、大きな成長であったと感じています。今回学んだことを3年生の実習に活かしたいと思います。

コロナ禍でオンラインを活用した キャリア支援を行っています

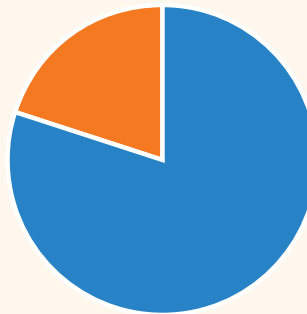
1 在学生による先輩講演(オンライン)

在学生による先輩講演をオンライン(ライブ)で開催しました。

赤十字病院や赤十字病院以外の医療機関、行政機関に就職内定をいただいた学生、助産コースの大学院に合格した先輩8名に自身の就職活動体験を話してもらい、これから就職活動を行う3年生に応援メッセージをいただきました。参加した3年生の満足度は高く、「就職先選択のことや、面接内容、勉強しておいた方が良いことなど、様々なことを教えて頂き、**自分の将来について改めて考える良いきっかけになりました。**」と今後のキャリアや進路について考える機会となりました。

毎回の先輩講演に関して満足度は
いかがでしたか。

● 非常に満足した	40
● どちらかといえば満足した	11
● どちらかといえば満足しなかった	0
● 満足していない	0



2 看護協会会長による講演(オンライン)

福岡県看護協会の大和会長より、看護職のキャリアアップに関するご講演をいただきました。講演では、時代のニーズに合わせた人材育成や、地域包括ケアシステムを推進する看護職の役割、「生涯にわたり生活と保健・医療・福祉をつなぐ看護」についてお話いただき、学生は看護職に求められている役割やプロフェッショナルとしてキャリアを考えることができました。

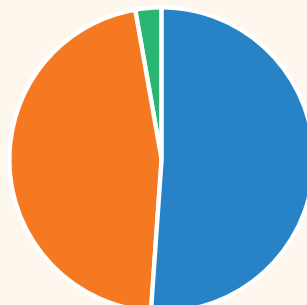


3 赤十字病院合同キャリア相談会(オンライン)

コロナ禍であるにもかかわらず、全国の赤十字病院20施設にご協力をいただき、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてオンライン形式で実施しました。学生は3日間の中で希望する赤十字病院の病院説明会に参加し(平均4施設、最大15)、看護部や卒業生等による病院紹介後に、限られた時間の中で教育体制や新人看護師の1日等について積極的に質問を行っていました。卒業生からも就職後の状況についてお話いただいたことから、「赤十字病院で働く先輩達の雰囲気が伝わってくる説明会で、職場の雰囲気も伝わってきてよかった」との声も聞かれた。アンケートの結果においても、「非常に満足した」と回答した学生が最も多く、「質問をもっとしたかった」との声もあり、これからの就職活動において有意義な機会となりました。

オンラインによるキャリア相談会でしたが、
その内容は満足できるものでしたか

● 非常に満足した	19
● まあまあ満足した	17
● あまり満足できなかった	1
● 満足できなかった	0



看護師国家試験に向けて 頑張りました!

2月13日(日)に第111回看護師国家試験が実施され、本学4年生99名が受験しました。今回は受験会場が熊本大学となったため、前日に熊本のホテル等で前泊するという慣れない環境の中での受験となり不安も多かったと思いますが、各自、精一杯の力を発揮することができたようです。

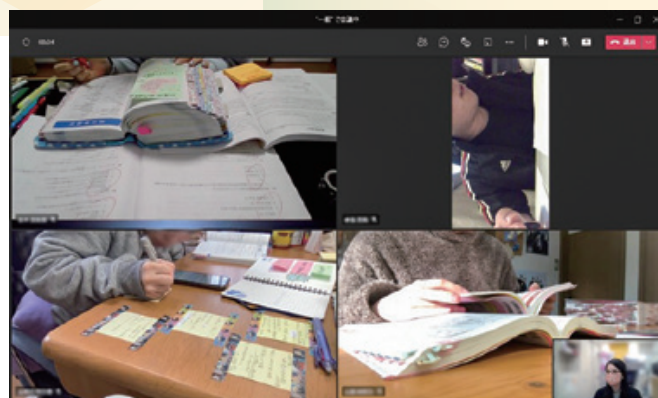
本学は国家試験対策として、学生の国家試験対策委員と教員の学年担当教員2名、国家試験受験支援担当1名が協同して、4年生全体の国家試験対策を担っています。

4年生は4月から国家試験対策は始まっていますが、前期は就職試験や卒業研究、統合実習など多重課題があり、どうしても国家試験対策は二の次になってしまいます。そのため、国家試験に一点集中できるようになった後期に取り組んだ内容を一部ご紹介します。

オンライン自習室

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、大学に来ることが難しい状況が続いています。

しかし国家試験の学習は“個”、“孤”になるのは非常に危険で、グループで学習することが効率の良い学習方法であると言われています。本来であれば、大学の学習室等を活用し自習環境を整えていましたが、このような状況下でしたので、オンラインで自習室を開催し、それぞれの自宅からアクセスし、友人と切磋琢磨できる環境を作りました。



国家試験カレンダー

看護師国家試験までの日数が残り何日か、視覚的に訴えることで学生の学習意欲を高めることを目的に学生の国家試験対策委員がカレンダーを作成しました。

国家試験が実施される2月だけ、教職員が応援メッセージを寄せ書きする特別仕様にデコレーションしました。

4月から続いている国家試験対策であるため、身体的にも精神的にも疲労が蓄積していたり、新型コロナウイルス感染症の蔓延に不安を抱えていたりする状況下でホッと安心できるメッセージを届けることで学生のラストスパートの学習支援に繋がられたと思います。

「看護師や保健師として将来活躍したい」と夢を描いて本学に入学してきた学生の皆さんの「夢」が全員実現できることを願うばかりです。

(3月25日に合格発表があり、本年度卒業生全員が、看護師国家試験に合格しました)



国際看護実践研究センターだより

国際看護実践研究センター(以下、国際センター)は、国際看護、赤十字、災害看護の教育・実践・研究を実施し、国際性豊かな看護学部生・院生を育成するとともに、海外との連携により国際看護の向上に寄与することを目的とし、様々な活動を行っています。今年度の国際センターの取り組みをお伝えします。



JICA 課題別研修「地域保健向上のための保健人材強化」(遠隔研修)

本学は、2008年以降、国際協力の一環として、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請に基づき課題別研修を受託し、海外研修生を対象に研修を行ってきました。今年度も昨年度同様、オンデマンド形式で研修を実施致しました。

- 研修期間 ▶ 2022年1月11日～2022年2月14日
- 参加国 ▶ ニカラグア、マラウィ、コートジボワール各1名、トーゴより2名
- 研修内容 ▶ 全26コマ(内、外部講師11名のご協力のもと構成)

国際シンポジウム

国際シンポジウム実行委員会主催による、第21回国際シンポジウムが開催されました。

- 開催日 ▶ 2022年2月22日(火)
- テーマ ▶ 医療通訳を身近な存在へと広めていくために
～「医療通訳によって広がる健康と福祉をすべての人に提供できる社会」を実現するために看護学生として“今できること”を考えよう～

実行委員会の声

小川 舞桜さん(学部1年生)

患者の一番身近な存在である看護師は、外国人患者にどのようにして寄り添えばいいのか。看護の方法を考える中で、今回、医療通訳に焦点を当て、国際シンポジウムを開催しました。学生の基調報告・山下先生の講演を聞き、「多言語に精通していない私たちが、外国人患者のためにできること」をテーマにディスカッションを行い、看護学生のうちから宗教や文化について勉強すること、医療現場に出た際には非言語コミュニケーションを用いながら患者の気持ちに寄り添うことが挙げられました。3・4年生とディスカッションすることで自分にはなかった考えや新たな視点に触れることもできました。また開催するまで、委員長として不安や緊張でいっぱいでしたが、本番を終え全力をだした瞬間の達成感は想像以上のものであり、一生忘れないものになりそうです。これらの経験を自分の誇りとこれからの糧にし、看護学を学び続ける上で、今の自分に何ができるのか自問自答をしながら考え続けたいと思いました。



山下 希亜さん(学部1年生)

今年度の国際シンポジウム実行委員は全員1年生でした。そのためシンポジウムとは、何ができるのかなど初歩的なことを学ぶところから始まりました。参加者が興味を持つテーマを夜な夜な学生同士で話し合い「医療通訳」というテーマに至りました。講演を聞き、今後コロナ禍でも入国の規制緩和によりさらに国内の国際化が進んでいくことが予想される今だからこそ、自分達が看護師になった時にどう外国人患者と接していくのかを参加者と共に考えることができました。また運営する側の学びも大きいものとなりました。Covid-19の影響で、運営ミーティングもオンラインで行われることが多く学生や教員との意思疎通が上手くいかないこともたくさんありました。しかし、その分国際シンポジウムが無事に開催できた時の達成感は言葉にならないほど感動するものでした。シンポジウムの運営に携わることができ、自分自身とても成長することができたと思います。この2つの大きな学びを今後の学生生活に活かして、自分の求める看護師像に近づけていきたいです。

日本赤十字九州国際看護大学 第21回 国際シンポジウム

医療通訳を 知っていますか?

医療通訳を身近な存在へと広めていくために

講演者 山下ゆかり氏	日時 2022年2月22日 13:00～16:15
経歴 NPO法人グローバル タイムサポートセンター 代表理事 福岡赤十字病院 国際医療 コーディネーター	場所 Zoomによるオンライン 申し込みQRコード

内容
日本語を母語に話せない患者や日本人は馴染みのない文化や習慣を持つ患者と接する際に必要な心構えや知識、看護学生にできることは何か一緒に考えましょう。

主催 日本赤十字九州国際看護大学 第21回国際シンポジウム実行委員会

国際フォーラム

中東地域レバノンとオンラインで繋ぎ、第10回国際フォーラムが開催されました。

- 開催日 ▶ 2022年3月1日(火)
- テーマ ▶ 中東での赤十字活動における具体的支援 政治・宗教・社会情勢を背景に

CNSコース「精神看護学」「老年看護学」開講決定!!

CNSコース「精神看護学」「老年看護学」が日本看護系大学協議会から専門看護師教育課程として認定されました。令和4年度より本学のCNSコースは、「精神看護学」「老年看護学」「在宅看護学」「クリティカルケア看護学」の4分野を38単位で開講いたします。

令和3年度博士課程修了生の声

本学から博士課程2名、修士課程7名の方が修了されました。ここでは、博士号を取得された2名の方の声を掲載しています。

【修了生の声】

私は博士課程への進学にあたり、学びたい気持ちだけが先行しており、今にして思えば、博士として何を成し遂げたいのかが明確ではありませんでした。そのため、入学後は、もっと準備をしていれば良かったと悔やみながら、地道に文献検討を重ねる日々が続きました。

1年目では、予備調査として、臨床現場の看護師の方々にインタビューを行い、現場の生の声を聴き、問題の明確化を図りました。文献検討と予備調査という過程を経て、博士課程で解決すべき問題が徐々に明らかになっていったように思います。また、2年目では、看護師のための教育プログラムを開発し、プレテストを実施しました。その結果を踏まえて研究計画書の作成に取り組みましたので、研究計画書の完成には実に3年を要しました。そして、時間をかけて練り上げた研究計画書通りに研究を実施し、思いもよらないほどの成果をあげる事ができました。

博士課程は修士課程の続き・・・と表現する方もおられますが、そうとも言えますし、そうでもないような気がします。結果として私は5年の歳月をかけて修了しましたが、一つひとつの課題に取り組み、丁寧に分析を続けた日々の努力は今後の私の人生の支えになると思っています。

私が無事に博士号を修得できたのは、先生方、先輩方、そして研究に協力いただいた看護師の皆様のお陰です。沢山の励ましの言葉をいただきありがとうございました。今後は博士として研究を続け、社会貢献に努めたいと思っています。

看護学研究科共同看護学専攻博士課程 小山 理英

私が博士課程に進学したきっかけは、もっと成長したいという思いを持ったことでした。今まで教育や研究に関わってきましたが、自分の力不足を実感することも多かったため、自分が成長するためには、大学院で学びたいと思い進学を決意しました。

博士課程で学ぶ日々は、自分にとって刺激を受けることが多かったです。その刺激は、喜びもありますが、模索する日々には苦しみも多かったです。博士課程の学びには答えはなく、自分の研究課題に取り組み、自分自身の力で何かを築き上げる日々は暗中模索で五里霧中な日々でした。また、仕事・家庭・博士課程の同時進行は多重課題も多く、時間の捻出も難しい状況でした。そのような中で、心が折れることなく前に進み続けることができたのは、先生方が博士課程の道のりを伴走してくださったからです。たくさんの方の努力をしましたが、自分の力だけで乗り越えることは困難だと感じる高いハードルが何個もありました。その時

に先生方のご指導とご支援により、進むべき方向が見えてきて、なんとか乗り越えることができました。また、同じように、働きながら博士課程で学ぶ学友にも励まされました。苦しみを共有し、悩みを相談しお互いに支えながら成長できたと思います。博士号取得までの道のりは、困難も多かったのですが、多くの方の支援を受けて、前に進むことができました。今はエベレストの登頂に成功したくらい気持ちです。しかし、博士課程の修了はゴールではなく、新たなスタートだとも感じています。今回の学びを今後につなげ、教育者・研究者として成長し、様々な貢献ができるように努力したいと思います。

振り返ると苦しい日々もありましたが、博士課程で学んだ日々は、自分にとって大事な時間になりました。大学院で学びたいと思っている方は、ぜひ挑戦してください。手を伸ばせば様々な学びを得ることができると思います。

看護学研究科共同看護学専攻博士課程 小手川 良江



教員紹介

今年度本学に来られた3名の先生方を紹介します

なか やま てる ゆき
リベラルアーツ・専門基礎領域 教授 **中山 晃志** 先生
インタビュー

Q 先生のご専門分野「統計科学」とは、分かりやすく言うところのどのような学問でしょうか。

A 厳密に定義されているわけではありませんが、統計学の概念や手法をあらゆる分野に展開することを目指す科学と認識していただければと思います。

Q 先生が今の学問を始めるきっかけとなった出来事がありますか。

A 大学では理学部数学科に在籍しており、数学には「数理解析」「代数」「幾何」「確率」などの様々な分野があるのですが、その中でも一番理解でき、他の分野よりも面白く感じた「統計」を卒業研究のゼミとして選んだことがきっかけになります。大学院進学により「統計」によるデータ分析に触れたり、社会における統計の必要性を身を感じたりしたことで、応用の場で統計を活かしていきたいと考えようになり、教育研究の場に就かせていただいています(看護大学が続いているのは偶然です)。

Q 本学へ来られて一年が経ちましたが、印象をお聞かせください。

A 「赤十字」というしっかりとした土台が大学組織や学生の意識の根底にあり、これにより統制の取れた非常に強みのある大学だということを感じています。

中山先生の略歴

- 1995年 広島大学理学部数学科 卒業
- 1997年 広島大学大学院理学研究科数学専攻修士課程 修了
- 2000年 同 博士課程、博士(理学)取得
日本原子力研究所放射線リスク研究室(現 日本原子力研究開発機構)にて勤務
- 2002年 大分県立看護科学大学にて助手、助教
- 2009年 国際医療福祉大学福岡看護学部(現 福岡国際医療福祉大学)にて講師、准教授
- 2021年 日本赤十字九州国際看護大学にて教授

ふく だ よう こ
成育看護領域 講師 **福田 陽子** 先生
インタビュー

Q 教員を目指されたきっかけを教えてください。

A 臨床で助産師として多くの妊産婦さんと関わっていました。新生児や産後のお母さん方と関わることが楽しくやりがいを感じていましたが、助産師教育に携わることもお母さん方の役に立つのではないかと思い教員になることを決意しました。

Q 本学に入職されて一年が経ちますが、学生とのやり取りで印象に残っていることはありますか。

A 目をキラキラさせて自分の夢を語ってくれる姿を見るのがとても嬉しく、頼もしく感じます。夢の話聞くたびに私も一緒に未来が広がるような気持ちにさせてもらっています。母性看護実習で、新生児を抱く学生の姿を見るのも好きです。はじめて抱っこしますという方が多いのですが、愛おしそうに大切に抱いてくれます。

Q 学生にどのような看護職者になって欲しいと思われますか。

A 看護は、とても幅広いです。難しさを感じることもあると思いますが、対象者との関わりを通して看護の楽しさも感じながら成長して行ってください。自分で思い込んだ枠にとられないように、多くの経験を積み重ねて行ってください。

福田先生の略歴

- 2000年 西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業
順天堂大学医学部付属順天堂医院(肝・胆・膵外科、乳腺外科)に勤務
- 2004年 済生会福岡総合病院(救命救急センターCCU・HCU)に勤務
- 2014年 日本赤十字九州国際看護大学
大学院看護学研究科看護学専攻修士課程助産教育卒業
産婦人科築紫クリニックに勤務
- 2018年 九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野
広域生涯看護学講座母性看護学・助産学領域 助教
- 2021年 日本赤十字九州国際看護大学 成育看護領域 講師

かも がわ
クリティカルケア・災害看護領域 助教 **鴨川 めぐみ** 先生
インタビュー

Q 小さい頃の夢はなんですか。

A 看護師
両親の強い勧めがありました。お恥ずかしいですが、特に理由はないのです…ただ、キャンディーキャンディーというアニメのキャラクターが書かれた看護師さんバックを持っていて中に入った包帯を自分の足に巻いて遊んでいました。そういうのが実はきっかけだったのかもしれない。

Q 現在の領域(クリティカルケア・災害看護領域)を選ばれたきっかけはありますか。

A 救急外来での勤務とBLSのインストラクターをやっていた時期があります。その経験を生かせないかなと思いました。

Q 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法があれば教えてください。

A 登山が好きで休みの日はいつも登っていました。四国の石鎚山が今まで登った山では最高峰です。鎖場があるところが好きで山頂で飲むコーヒーは別格です。そんな趣味も、最近ではコロナの影響もありなかなか行けません。手乗り文鳥が4羽います。家に帰ると、放鳥しぼんやり眺めています。それが今は癒しです。



鴨川先生の略歴

- 長崎県生まれ 看護師歴20年以上
- 脳神経外科・腎臓内科・糖尿病内科・整形外科・外来に勤務
- 糖尿病療養指導士の資格を20代で取得する。フットケア看護外来で糖尿病足病変を持つ方や、リスクの高い患者さんとの関わりを通し、セルフケア支援の奥深さを学ぶ。同時にながさきACLSトレーニングサイトにおいてBLSインストラクターを経験し、離島を含む心肺蘇生講習会に参加する。一次救命処置を理解し広めることで救える命を救うことができる確かさを受講した方の声を聴き、励みとする。当時の副看護部長(教育担当)より、あなたは一体、どちらの道を究めたいのかと聞かれるが、どちらも楽しいと思い、しばらくは2足のわらじを履いておく。
- 40代で佐賀大学大学院医学系研究科生涯発達看護学 教育研究コース卒業
- その後、本学へ。子供2人 自宅は長崎。

令和3年度オープンキャンパス(オンライン)を開催!

令和3年度も新型コロナウイルス感染症感染予防のため、オンラインでオープンキャンパスを開催しました。

10月に開催したオープンキャンパスでは、学生のボランティアが運営に協力。司会進行、大学施設の紹介や在学生との座談会を行ってくれました。

始まる前は少し緊張していた司会の二人も、明るく臨機応変に進行してくれました。大学施設の紹介では、講義で行っている看護演習の様子も交えながら実習室を紹介したり、図書館を案内。カメラワークもバッチリでした。在学生との座談会では、事前に参加者から寄せられた質問内容に在学中のエピソードも交えながら優しく答えていました。

ボランティアとして運営に協力している学生のみなさんを通じて、本学の様子をお届けできました。



オンラインでは、実際の大学の雰囲気がなかなか伝わりづらい点もあります。そこで、大学に実際に訪れて雰囲気を感じてみたい方へ、大学見学を行っています。また、入試制度や奨学金など、個別の相談にも応じています。ご希望の方は、本学ホームページからお申込みください。

令和4年度オープンキャンパス開催予定日

令和4年7月16日(土)、8月6日(土)、10月16日(日) 令和5年3月18日(土)

開催日が近づきましたら、本学ホームページで詳細をご案内します。



※写真は過去に開催した様子です

Instagram公式アカウントを開設

Instagramの本学公式アカウントを開設しました。

学生の様子や大学の紹介など投稿しています。ぜひフォローしてください。

@jrckkyushu_college

検索



12/26 クリスマスツリー飾りつけ



12/21 運動機能論(1年必修科目)で鬼ごっこ



12/19 全国学生クリスマス献血キャンペーン

「DX推進計画」のもとキャンパスのDX化を加速

ハイフレックス・ハイブリッド型授業にも対応する映像・音響設備を導入しました!

現在も新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、対面授業とオンライン授業を切り替えながらカリキュラムの運用を続けていますが、4年間の大学生活で最大限の学びを得られるよう設備の充実にも取り組んでいます。

今回、「文科省の補助金名称：令和3年度大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」を獲得し、昨年度の学習支援システム(LMS: Learning Management System)のMoodleの導入に続き、講義室101~104の4つの教室に、最新の映像・音響設備(Panopto、Cynap pureなど)を導入しました。これらの設備により、コロナ禍の有無を問わず、ハイフレックス・ハイブリッド教育による教育の質の向上、教育開発、方法論の進化を目指しています。ハイフレックス(HyFlex: Hybrid-Flexible)型の授業では、学生が同じ内容の授業を、オンラインでも対面でも受講できます。オンライン授業と対面授業を組み合わせて実施する、いわゆるハイブリッド型授業には、いくつかのパターンがあります。ハイブリッド型授業を考える際には、オンライン授業でもできること、オンライン授業だからできること、オンライン授業ではできないことを確認して授業をデザインすることが必要です。本学ではこれらの授業スタイルにMoodleを併用することで、より能動的な学習を支援します。また次年度からは電子教科書の導入も始まります。さらに、学習成果を可視化するポータルシステムも連携しているため、自己の学習状況を確認しながら成長できる設備が整ってきました。本学はこれからもICTを利活用した教育を推進します。



ハイフレックス型授業の教職員向け説明会
※感染対策のため、複数回に分けて実施

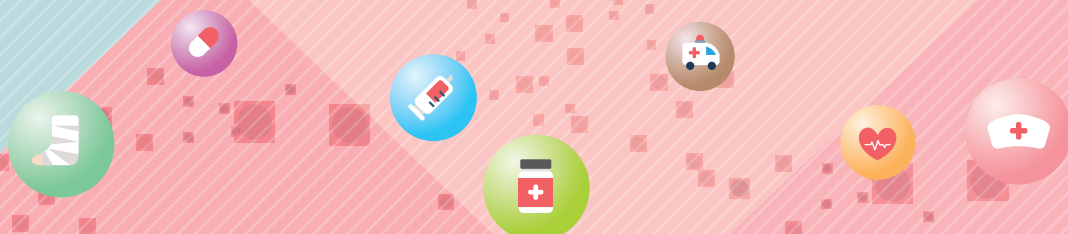


ハイフレックス型授業のイメージ

高機能シミュレーター、VR実習などを授業に取り入れています!

高機能シミュレーターは、さまざまな身体状況(心拍数、呼吸数、心音、呼吸音など)を設定することができます。様々な患者の状態に合わせて観察を行ったり、失敗や経験を繰り返し学習できることが特徴です。コロナ禍においても臨床現場に近い患者の状況を再現することで、学生の学びを深めることが可能となります。

VR(バーチャルリアリティ:仮想現実)では、予め準備した360°カメラで撮影された動画素材を用いることで、VRゴーグルを装着すると臨床現場にいるような没入感を体験することができ、言葉だけでは伝わらない臨床現場をイメージできるようになります。





大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって
一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けら
れました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生
・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの
願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（平成26年度 看護学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身

日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地
Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>



Instagram公式アカウント

寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付
金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本
学ホームページでご確認をお願いいたします。